

極 秘
無 期 限
部の内 号

報 告 ・ 供 覧

<p>大 臣 (秘書官)</p> <p>政務次官</p> <p>事務次官</p> <p>外務審議官</p> <p>外務審議官</p> <p>官 房 長</p>	<p>主 管</p> <p>中近東アフリカ局長</p> <p>参 事 官</p> <p>中近東第一課長</p> <p>地域調整官</p> <p>首席事務官</p>	<p>保 存 期 間</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">1類 (永久)</td> <td style="width: 25%;">2類 (10年)</td> <td style="width: 25%;">3類 (5年)</td> <td style="width: 25%;">4類 (1年)</td> </tr> </table> <p>起案 昭和 66年 7月 29日</p> <p>完結 昭和 年 月 日</p> <p>起案者 電話番号</p> <p>玉川 2769</p>	1類 (永久)	2類 (10年)	3類 (5年)	4類 (1年)
1類 (永久)	2類 (10年)	3類 (5年)	4類 (1年)			
<p>回 覧 先</p> <p>総務課長 / 北米第一課長 / 中近東第二課長</p> <p>首席事務官</p>						
<p>下記の件に関し、別紙のとおり報告・供覧します。</p>						
<p>件 名 レド)ンにおける米国人人質解放内題</p> <p style="text-align: center;">(中曾根 総理より 指示 柳谷次官への連絡) (指示)</p>						
<p>(別紙の要点等)</p>						
GA-7 (昭和54.4.1)	外務省	回覧番号 2936				

レバノンにおける米国人人質解放問題

7月29日 中曽根総理より柳谷次官に対し、本件につき
次の通り指示があった。

1. 28日、レーガン大統領より電話があり、まず病氣見舞い
に対する謝意を表明越したが、その後の主たる話題

はレバノンにおける7人の米国人人質解放問題であった。
「レ」大統領は、これら米国人人質は大学教授、神父、

新聞記者等の善良な米国民であり、それだけに
米国民の心の痛みも大きいので、人質解放のため

日本政府の協力を得たいとのことであった。

これに対し自分より出来る限りの努力を行う旨述べ
(総理)

たところ「レ」大統領はマックファーレン補佐官より
松永大使に詳細を説明させることにしたい旨述べた。

2. 本件については、わが国としては仮に成功しなくとも積極的な努力を行うことが重要であるので

（対レーガン対策とに意味あり）

安倍大臣とも相談の上、積極的な対策を構^講じて欲しい。

特に人質問題は米国民が特別な関心を有している問題であるので、この問題に対し日本が協力する

ことは貿易摩擦を含む日米関係全般にとって極めて重要である。また本問題に対し日本が協力

している事実が議会筋にも浸透^浸することが望ましい。従って本件に対しては早急に対応することが

必要である。

3. 具体的にはイラン、シリアに対し働きかけを行う

ことが必要であろうが、それとともにクウェイトで捕われている「神の党」のメンバーを処刑しないよう

人道上の見地から申し入れることも必要ではないが。また「神の覚」に対し本当にイランが影響を

を持っているのであれば、イランに対しても神の覚が今後テロ行動を行わないよう働きかけを行うべき

と思う。

4. いずれにせよ、イラン、シリアと話を進め、条件

交渉に入らせる必要がある。またその際は

右に

対する口内の反対は自分が抑える用意がある。

また自分(総理)の信任する人物を秘密裏に
(特使として)

派遣すること^も考えてほしい。(3)

極 秘

無 期 限

10 部の内
10 号

レーガン大統領からの総理への電話

(60-7-29)
(北ま一)

28日夜、レーガン大統領より軽井沢にて休暇中
の中曽根総理に対して電話があったところ、

29日朝長谷川秘書官より連絡越したところによれば電話のやりとりは要旨以下の通りの由、

(長谷川秘書官は、総理とは同行しておらず、
電話の内容は、同秘書官が総理より直接

聴取したものである。なお、本件電話のやりとりは
いっさい外に出さないよう総理は指示され

た由。)

1. 冒頭大統領より、病氣見舞いのメッセージを

度々受けたことに対する謝意の表明があつた。
(特に、法皇^{陛下}に対して早期回復を祈るよう

総理より要請したことを多としていた由)

2、次いで大統領は、Action Programに言及し、議会が厭しい状況にあるのでよろしく願ひたい旨述べた。

3、更に、大統領は、ベイルートで人質となつてゐる米国人7名について、日本側におかれても何かできればよろしくお願ひする旨述べたので、総理より日本側としてできるだけのことをしたく、松永大使が帰任したので詳しくは大使に連絡して頂きたい旨応答した。

(以上)